

プレス公表（運転保守状況）

2016年1月28日

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
	2015年 12月9日	7号機	残留熱除去系停止時冷却外側隔離弁(C) 電源喪失警報の発生について（区分）	<p>（発生状況） 2015年12月9日午後0時23分頃、定期検査中の7号機（定格電気出力135万6千キロワット）の中央制御室において、「残留熱除去系^{*1}停止時冷却外側隔離弁^{*2}(C)電源喪失」の警報が発生しました。 確認したところ、原子炉建屋1階（管理区域）残留熱除去系弁室の外側で壁のボーリング作業を実施しており、この作業に伴い誤って当該弁の制御用のケーブルを損傷させてしまったことがわかりました。</p> <p>（安全性、外部への影響） 現在、7号機は停止中であり、原子炉の除熱は他の系統で実施しており、残留熱除去系（C）系に除熱機能の要求はありません。 また、外部への放射能の影響はありません。</p> <p>*1 残留熱除去系 原子炉を停止した後の燃料の崩壊熱除去や、非常時に原子炉水を維持するために原子炉へ注水する系統。</p> <p>*2 停止時冷却外側隔離弁 原子炉から残留熱除去系ポンプに冷却材を供給するために使用する弁</p> <p style="text-align: right;">（2015年12月9日お知らせ済み）</p> <p>（対応状況） <u>損傷した制御ケーブルについては、応急修理及び作動試験を行い正常に動作することを確認しました。</u> <u>今後、ケーブル引替等の恒久修理を実施していきます。</u> <u>調査の結果、現場で穿孔を行う者と図面にて埋設物を確認する者の情報共有が十分にされていなかったために、当該の電線管の埋設情報が現場に確実に伝わっておらず、穿孔前の試掘が十分行われていなかったことがわかりました。</u> <u>また、ボーリングを実施するにあたっては、埋設物を損傷させないために、ガイドを定めて作業を実施しており、ガイドの項目に沿って作業を行っていましたが、一部の作業ステップが入れ替わっていたことを確認しました。</u> <u>この他に穿孔作業において埋設物を確認しましたが、鉄筋であると判断し作業を継続していたことがわかりました。</u></p> <p><u>主な対策として、以下を実施します。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事所管箇所は、埋設情報を確実に受注者へ提供するとともに、受注者はその情報を参考に現場の探査を実施する。 ・ガイドについて一部に認識の誤りがあったことから、情報共有等についてガイドの改訂を行い工事関係者へ教育を実施する。 ・穿孔実施時に予期せぬ埋設物が確認された場合は、一度立ち止まり、試掘等により埋設物を確認する。